

令和5年度 第1回 中能登町立鹿西小学校 学校運営協議会 議事録

【日 時】	令和5年5月1日（月）14：00～
【会 場】	中能登町立鹿西小学校 多目的室
【出席者】	泉 知久・大森 宏一・小島 麗子・中島 登・林 高史・間野 奈津美 横町 昌宏鹿西小学校長（50音順）
【事務局】	中能登町教育委員会 林大智 教育長 学校教育課 梅澤博 課長・高木宣維 担当課長・大西健 課長補佐 生涯学習課 清酒秀樹 課長・守山一富 課長補佐・大野知子 主査
【次回予定】	令和5年

司会：学校教育課 高木 宣維 担当課長

1. 開会

ただ今より令和5年度、鹿西小学校学校運営協議会を開催いたします。

2. 教育長あいさつ

皆様こんにちは。お昼のお忙しい中ありがとうございます。

学校運営協議会を置いた学校をコミュニティ・スクールと言います。簡単に言うと地域の力を借りて学校を作っていくという制度です。

周りからは中能登町はもうコミュニティ・スクールじゃなかったのですかと言われるぐらいに地域の方が協力してくれていますが、さらに協力を得たく、モデル地区として立ち上げました。準備でかほく市に行ったのですが、地域と学校の垣根が低くなったと聞いています。子どもたちが元気で健やかに育てる町にしたいなど改めて思っているので、今日は、いろんなことを話しながら、学校運営協議会を理解していただいて、子ども達に健やかな成長を見守りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

3. 出席者自己紹介

～省 略～

4. 任命書の交付

5. 会長、副会長の選出

～選出にあたり、中能登町学校運営協議会規則を元に説明～

委員の承認を得、会長に中島登委員、副会長に大森宏一委員を選出。

6. 協議会の趣旨説明

～資料に基づき説明～

【進行の交代】高木宣維担当課長→中島登会長

7. 令和5年度学校運営方針について

～横町校長より、学校経営計画について説明～

【進行の交代】中島登会長（所要により退席）→大森宏一副会長

8. 令和5年度事業計画について

~中能登町コミュニティ・スクールリーフレットに基づき説明~

9. 質疑応答・意見交換

委員：ICT というのは？

→校長：子どもたちが直に触れているもので、タブレット。タブレットを使った授業が子ども達の身近なところで行われている ICT 機器の活用になる。

委員：実際に困っている、助けてほしいという生の感覚が、まだ地域に感じられない。
それをどう歩み寄らせるのか。

→校長：いろんなことで学校は悩みを持っている。見守り隊の人数の減少、高齢化は数年ずっと悩みとなっている。細々としたところだと、授業ひとつとっても、家庭科の調理実習であったり、ミシン・裁縫等の授業になると担任が一人で30人ぐらいの子どもたちを一度になかなか見ることができない。こういったところでご援助頂く方々がいるとありがたいと思っている。

委員：ボランティア募集のチラシですが、実際どれくらい集まったのか？

→事務局：先週木曜日に配り、今、1名より問い合わせを受けている。

委員：私はミシンが好きですが、自己流なので正直ここに申込むにはハードル高いかなと。

そういう人はいっぱいいると思う。どの程度のスキルを求められるかわからないから、積極的をお願いしていかない限り、待っているだけだと難しい。自信がないっていうか、手伝いならと、いう人はいるかもしれないが。

→校長：いきなり指導や講演ではなく、事前の打ち合わせは欠かすことができないと思う。

鹿西小学校にも今まで協力いただいた地域の方々の上積みがあり、町と共有をして、さらに人材バンクを大きくしようと言うことを考えている。基礎の部分は持っているので、上積みして学校側がいろんな思いを持ってお話をし、こんな方がいるよと教えていただくと言う風に、これからどんどん変わっていくと思う。

→事務局：年に4回程度コミュニティ・スクールだよりを配布する予定。その時にサポート事例を紹介し、ささやかなことでもいいのだと、これぐらいなら私も大丈夫かなと思えるような形で周知したいと考えている。

教頭：今度は10月ですね。

→事務局：あくまで目安なので、学校でもっと早くしたいという思いがあれば。

教頭：1回目は、立ち上げ・説明・承認、一年間の計画の見通しでしたが、2回目の内容は？

→事務局：学校運営協議会で課題の解決に向かうことになる。学校行事をどうしようか、見守り隊の問題についてなど、第2、3回は、その話し合い、熟議をしていくことになる。後で課題の洗い出しをして、開始していただければいいと思う。

教頭：学校評価委員会の時は最後に評価をしてもらっていた。2回目は中間評価という位置づけで学校の授業を見ていただいていた。それとは趣旨が違うのか？

→事務局：まだイメージが掴めていないのかと思うのだが、例えば課題に見守り隊の拡大・人材発掘があって、現在40名ほどが在籍しているとあるが、実際どれくらいの方が活動されているのか把握できていない。校長先生がいわれたとおり、高齢化で名前だけで実際出していないっていうのは、もう課題としてある。それに向かってどう解決するかを模索しなきゃいけない。鹿西地区の区長さんを通じて問い合わせをして、割り当てまで行かない

でも、協力していただける方を発掘して実際に立っていただく形で、その中でこの曜日の時間だったら俺が出られるけど、この時間はできないからあなたがしてとか、そういった仕組み作りや人材発掘が、分かりやすい例かと思う。それを行うために、鹿西地区の区長会長している泉委員が区長会通じてそんな人いませんかという投げかけとか、今の実態を課題として共通認識した上で、どう解決して行くかを深掘りし、解決に導いていただければと思う。

委員：泉委員が区長会に少しでも声掛けした方が良いということか。もうちょっと練ってから区長会に言ったほうがいいのか？

→事務局：どういうやり方がいいのかという正解はなく、例として話した。委員の中で、どういったやり方がいいのかをまた考えて頂きたい。決してこうしてください、ああしてくださいというわけではない。その学校ごとに応じたやり方があるかと思うので、模索してどう解決して行くかということになるかと思う。

→委員：客観的に学校のプレッシャーが多くないのか？今、子どもの通学中でどの辺りに現在立っていて、全部の地区に立つのではなく、ポイントポイントに立っているが、この場所が足りないとかを、校長先生と教頭先生が調査するみたいに聞こえてしまうが。

→事務局：調査やポイントも含めて、委員の皆さんの中で課題に取り組んで頂く。学校が全てやる訳ではなく、できるところをできるコミュニティの人たちが一緒にやって行こうという形で持ってもらいたい。

→委員：だったら、2回目は10月ではない。子どもはもう生活している。明日にでも立ち上げるべきだと思う。そこで緊急性があるから、区長会でフィードバックしてくれって言ってくれた方がいいと思う。朝いつも通勤で通っていますけど、確かに送り迎えされている保護者の車も危ないし、スクールバスも来ている。歩いている子も多いので、もうちょっと現実的に交通安全について考えるべきかと。僕も交通安全推進隊をやっているの、信号の所に立って横断歩道を渡るだけが見守りではないと思う。

あと物騒な人も増えているから、子どもがどこのルートを何時に通るから、ここに誰かがいてほしいなということ具体的に出さない。見守り隊の40名というのは数字上であって、実は本当にこの交差点に5人いるとか、具体的に出した方が良く思う。スクールバスがあるけれど、子どもおろして終わりですよ？バスから降りた瞬間、そこに見守り隊がいるかないかによって、ちゃんと子どもたちが帰ったどうか乗り遅れた子もいるか確認できているのかなど、そういう小さいことからやった方が良く思う。

→事務局：今はスクールバスを利用する子どもが多かったり、祖父母が送ってきたり、保護者が通勤途中に送ってきて近くで降ろしたりと、通学形態自身も変わってきているので、やみくもに見守隊を増やせばいいという話でもない。

→委員：金沢などに見守り隊はおじいちゃん達が先頭に立って歩いていくイメージだが、中能登地区は、ずっと歩道を歩いていくような見守り隊ではない。要所要所のポイントを決めていく。

→事務局：見守り隊のあり方自身も、それが正解なのか考えなければいけないと思う。

→委員：子ども110番も、家に誰もいない不必要なところに看板があって、その看板があることによって、子どもが行ってしまうから、いらぬところは取ってもらわないと。でも本当に必要なところもある。例えば金丸地区だと、スクールバスが旧のと共栄信用金庫のところ止まるのでそのあたりにあればと思う。誰も住んでない家に看板があると、子どもは看板を見て逃げてくるから、余計危ないと思う。そういう、見守り隊と別でこういう小さなこともあればと思う。

副会長：今日は出始めで、いろんな意見も出た。会長に聞いてないが、確かに10月ではないとも思う。もうちょっと、どこまでできたかなとか、いろんな意見を皆さん持って来られると思いますので、会長を通じてもう一回早めにと。いろんな意見があるけれど、手探りで聞きながら進めていければ。

教育長：恥ずかしながら、こういった形の学校運営協議会にするのか、まだはっきり描けないという状況にある。しかし、子どもの安全という一つの議題を取り上げてしても、見守りであったり、110番であったり、あるいは交差点のどこが危険な場所なのだというようなことも含めて非常に大切な意見をいっぱい出していただいたと思っている。次回はその安心安全といったところに皆さんの知恵を借りるような会になっていくのではないかと思う。

10. 閉会あいさつ（大森副会長）

長時間皆さんありがとうございました。大事な意見もありますし、今後、私らも手探りでございますが、みんなで頑張っていければと思いますので、よろしくお願ひします。